

クリスマスローズの今とこれから

野 田 園 芸

若 尾 暁 子

自己紹介

メーカーに勤めた後、30代で千葉大園芸学部園芸別科に入学しました。卒業後は出産・育児を経て2005年末に東京都杉並区 野田園芸に入社しました。野田園芸は花葉会の先輩である野田卯一郎氏が経営し、極初期よりクリスマスローズをイギリスから導入。自家採種し栽培・販売しています。2005年と言えばクリスマスローズの人気はすでに高く、一部のファンの間でこの花の熱気は大変なものでした。それまでの私は不勉強ながらクリスマスローズのことやシーンの盛り上がりを知らず、いきなりこの世界に入り、勉強しながら作業をこなしてきました。そしてクリスマスローズとの関わりも10年を過ぎ、この業界についてのこれからと行く末について考えをめぐらすことができるようになってきましたので、本稿では業界の片隅から見たクリスマスローズの過去・現在・未来について考察してみたいと思います。

クリスマスローズの歩み 人気花への道

日本での園芸上の歩みは1994年に始まります。イギリスで発行された書籍をきっかけに花卉生産者3名がイギリスに出向き、ガーデンハイブリッドの丸弁の鮮やかな色の美しい花を見て、この瞬間に「この花を日本で広げよう」と思ったそうです。この後3名を中心に日本クリスマスローズ協会を発足（1997年）、翌1998年には神代植物公園での展示会が始まります。メディアでの露出が大きくなってくのが1996年からで2月にNHK出版「趣味の園芸」テキストで特集が組まれています。

イベント

2003年2月池袋サンシャインシティと日本クリスマスローズ協会の共催で「第1回クリスマスローズの世界展」が開催されました。このイベントは現在16回を数え、有料でありながら毎回10,000人近くの来場者があるクリスマスローズ業界の祭りです。

※来場者は7割以上がナイスミディでリピート率が

7割と非常に熱心なファンの多いイベントとなっています（サンシャインシティ アンケート調査より）。

この他メディア（趣味の園芸テキスト）に告知されているイベント件数は例年20件ほどあり、近年は全国で開催されています。サンシャインシティでは当園の販売ブースがあり、明るい色みの花が毎年売れ筋となっていますが花型はシングル、ダブルどちらも売れます。シングルは価格が少し安いこともあり、入門者が購入しやすいことと、ベテランの愛好家でも実はシングル好きが多く根強い人気があります。

ブースでお客さんと話しをしていると育てたことのない方から「クリスマスローズは丈夫ですか?」「毎年咲きますか?」とよく聞かれます。どちらも「大丈夫です」とお答えしますが、これが他の花にはなかなかないクリスマスローズの長所だと思います。また、これだけクリスマスローズが一般に知られるようになったとこちらが思っている、まだ実際に育てたことのないお客さんが相当数おられることに気づかされます。



「クリスマスローズの世界展」販売ブース

NHK「趣味の園芸」特集内容の移り変わり

NHK出版「趣味の園芸」テキストは1996年の初特集から初期の数年をのぞき、毎年クリスマスローズの特集を組んでいます。その移り変わりは下記の通りです。（ ）内は筆者の気づいたこと。

1996年2月号「春に咲くクリスマスローズ」

（原種ニゲル・シングルHyb掲載）

1998年2月号「丈夫で簡単！春を呼ぶ花 クリスマスローズ」
(初めてダブルHyb種が紹介される)

1999年1月号「季節の花」
(原種有茎種・無茎種の紹介)

2001年1月号「クリスマスローズ」
(ダブルHyb種が掲載される)

2002年2月号「クリスマスローズ」
(初めてセミダブル種が掲載される)

2003年1月号「冬咲きのクリスマスローズ」
(原種ニゲル中心)

2005年3月号「クリスマスローズの優雅な世界」
(ダブルHyb多数、新色の黒・ゴールドのシングルHybが掲載される)

2006年2月号「冬はやっぱりクリスマスローズ」
(シングルHybの新色、模様が増える)

2007年1月号「大好き！クリスマスローズ」
(イギリスのダブル有力種パーティードレス系が掲載される)

2008年2月号「これだからやめられないクリスマスローズ」
(小輪多花性交配種の紹介)

2009年2月号「今年も魅せます クリスマスローズ」
(小輪多花原種交配の掲載)

2010年1月号「クリスマスローズ大研究」
(2か月連続企画。イギリスの有力系統シングルゴールド、ネオンや原種との交配種が掲載される)

2010年2月号「クリスマスローズ大研究 Part2」
(原生地情報、交配情報掲載)

2011年1月号「英国流クリスマスローズ栽培術」

2011年2月号「気軽にクリスマスローズ」
(2か月連続特集)

2011年11月号「早咲きクリスマスローズを楽しむ」

2012年1月号「原種系クリスマスローズのススメ」
(原種交配多数、ダブル多弁花なども掲載されはじめる)

2012年12月号「もうひとつのクリスマスローズ有茎種の魅力」

2013年1月号「今年も魅せますクリスマスローズ」
(新しい花模様が増加・ナーセリー育種情報)

2014年1月号「クリスマスローズ後悔しない選び方」
(品種改良のキーワード・ナーセリーの花掲載)

2014年3月号「クリスマスローズ オフシーズンに向けて」

2015年1月号「イングリッシュガーデンに習うクリスマスローズの育て方」
(今年のHybトレンド5紹介)

2016年1月号「知って！育てて！楽しんで！クリスマスローズレッスン」
(人気の種として原種とダブルHybの品種名つき新種が多数掲載される)

2017年1月号「クリスマスローズ 再発見！」
(Hybのバリエーション増加、マニア向け情報や交配方法紹介)
※この年、読者が育てたい花 冬第1位になっている(第2位はシクラメン)。

2018年1月号「大特集 クリスマスローズ本当に知りたい7つのこと」
(ナーセリー別交配花掲載・花集めと交配の楽しみ)

考察

90年代後半は原種やシングルHybの紹介と来歴・栽培方法を記事のメインとしていましたが、2000年代になるとほとんどなくなって海外より色鮮やかなシングル、ダブルHybが導入され、掲載されるようになりました。交配花が次々生み出され、この時期に現在の色幅に到達しています。2000年後半から小輪多花性を求め、原種の交配が多く行われ、掲載も増えました。また野趣のある原種の人気が高まりました。2010年代からこの流れに加えイギリスのゴールド系統が導入され、これらの交配種が増加してきます。またナーセリーを取材した情報が増え、品種改良に関する情報やマニア向けの情報が毎年掲載されるようになりました。ここ数年はより交配のバリエーションが広がってきており、毎年品種改良のトレンドやおすすめの花を紹介しています。華やかな誌面はシーンの盛り上がりを映しているように感じます。

クリスマスローズ 成功の要因

○多様性の高い花

交配が容易で変異が出やすいため、育種参加者が増加。個人でも独自の交配をする等盛り上がりを見せています。またこの花の持つイメージも多様で、野趣のある雰囲気や和風、ゴージャス系などいくつもの顔を持ちます。

○冬～初春の商材

○育てやすさ・毎年咲かせられる

ほぼノーテクニックで多くの種が毎年咲きます。
病害虫もとても少ないです。

○女性に人気が高い

「クリスマスローズの世界展」でも見られる通り、特にナイスミディの人気が高い花です。うつむき加減に咲く様子やニュアンスのある色合いに大いに惹かれるのかもしれません。

○一つ一つが違う

交配種はほとんどが1株ごとに異なり、気に入った1点ものを探す楽しさがあります。これが取りつかれる人が多い理由かもしれません。

○写真映りが良い

いわゆる‘インスタ映え’がとても良い花です。シンプルに撮影したアップの花でも雰囲気のある写真になります。

今後の課題

価格：クリスマスローズは高いか？

確かにクリスマスローズ＝高い花とイメージが定着していた時期がありましたが、近年は希少種でない限り他の鉢物花卉とあまり差はなく、毎年咲くことを考えるとむしろ低価格ではないかと思います。10年位前、クリスマスローズ生産への参入者が増加した時期がありましたが現在需給のバランスは安定しており、本園では3年前から小売り価格を多くの種で変えていません。しかしこの良好な状態が長く続くとは考えられず、来るべき景気後退の影響を受けることも推測されます。価格が下落しても利益を得られるよう当園では数年前から播種後2年での開花を目指しています。通常は開花まで3年かかるクリスマスローズですが、温度処理をして発芽までの期間を短縮すると2年で開花するようになります。

当園ではこれらを早期発芽苗と呼び、直近では2年



早期発芽苗育成（夏期は冷蔵庫で育成）

開花率が平均50%となりました。育種においてもメリットの多い2年開花率を今後は70%以上に上げるべく取り組んでいきたいと考えています。

商品ラインナップ：作りすぎず、切らさず

クリスマスローズがメジャーな植物になった今、用途は広がり、大口の注文（植栽用）が多くなってきています。またホームセンターでの大量の販売にも対応できるように当園ではシングルHyb、ダブルHybの色幅を広く多く生産しています。注文は毎年変わりますが、これら在庫管理能力を上げて引き続き対応できるようにしていきたいと思っています。

情報発信：新しい花の情報をタイムリーに

当園は比較的初期より通信販売、直販をしています。今後は直販でより多くの方に来園いただけるよう情報発信を強化していきたいと考えています。当園の情報は新しい花の販売、栽培情報等をホームページやSNSで発信する予定です。

当園の育種目標

1. 観賞価値

花色：新規の色（朱赤など）・色彩の変化・発色、安定性向上

模様：均一なペイン・ブロッチ・フラッシュ、濃くはっきりした模様
新規の模様（例 シルバーエッジ）

花型：カップ咲き・平咲き・ボンボン咲き・ロゼット咲き・変わり咲き

花首：短くしっかりしている

花サイズ：大輪・中輪・小輪

花数：多花茎・枝咲き

芳香性：フローラル系の香り

草姿：大型・矮性

開花の早晩性：早生・中生・晩生

2. 育成面

耐暑性・耐病性

開花までの期間が短い（2年で開花が見込める）

クリスマスローズの色幅はかなり広く、現在ない色は朱赤、青です。この中では赤は育種が進んでいます。また咲き進むにつれてグリーン等に変色していく部分や安定性（毎年同じ色で咲く）の改良は進めていきたいと考えています。模様は無地とピコティを基本とし、

サブとしてブロッチとベインを改良しています。色の場合と同じく、はっきりした模様が安定して発現することを目標としています。花型はシングルがカップ咲きで、ダブルは様々な花型を得られるようにしていきたいです。花首がしっかりしており、中輪サイズの花を選ぶことが多く、育成面では耐暑性を特に重要視しています。近年の猛暑でも夏越しのダメージが少ない親株を選んでいます。



シングル イエローブロッチ

新しい花の作出

多弁花は2010年から交配を始め、現在4代目です。人気の高いピコティや白を中心に丸弁のカップ咲きやポンポン咲きを育成しています。中輪で多花性でもあ



多弁ダブル ピコティ



多弁ダブル ホワイト

るため有望な系統です。夢は華やかさと上品さを兼ね備えたフルダブルです。

多弁ダブル交配の過程で出現してきた系統に変わり咲き系統があります。小花弁が盛り上がるタイプやオールドローズのようなロゼット咲きは新しい系統です。



変わり咲きダブル ピンク



ロゼット咲きダブル ホワイト

おわりに

千葉大園芸学部を卒業して15年、それまで全く知らなかったクリスマスローズに出会うことにより、この花のもつ深い味わいと魅力に強く惹きつけられました。これからもこの気持ちを心において、野田園芸の仲間とともに、クリスマスローズがますます人々に愛され続けるよう励んでいきたいと思っています。